

カービュー マーケットウォッチ (2011年11月)

自動車総合サイト「carview.co.jp」を運営する株式会社カービュー（本社：東京都中央区、代表取締役：松本 基）は、社団法人 日本自動車販売協会連合会が公表する「月間登録台数ランキング」をもとに、日本国内における自動車マーケットの動きを独自分析する。

乗用車全体で14カ月ぶりに前年を上回る！

11年 10月順位	11年 9月順位	動向	モデル名	メーカー名	台数
1	(1)	→	プリウス	トヨタ	29,632
2	(2)	→	フィット	ホンダ	22,352
3	(3)	→	ヴィッツ	トヨタ	10,009
4	(9)	↑	カローラ	トヨタ	7,434
5	(4)	↓	セレナ	日産	6,357
6	(7)	↑	パッソ	トヨタ	5,930
7	(18)	↑	ステップワゴン	ホンダ	5,191
8	(12)	↑	ラクティス	トヨタ	5,040
9	(11)	↑	ヴォクシー	トヨタ	4,839
10	(8)	↓	フリード	ホンダ	4,764
11	(-)	↑	エスティマ	トヨタ	4,547
12	(6)	↓	デミオ	マツダ	4,404
13	(14)	↑	ノア	トヨタ	4,101
14	(17)	↑	シエンタ	トヨタ	3,840
15	(30)	↑	クラウン	トヨタ	3,829
16	(10)	↓	ノート	日産	3,537
17	(9)	↓	マーチ	日産	3,495
18	(15)	↓	ウィッシュ	トヨタ	3,299
19	(16)	↓	キューブ	日産	2,919
20	(20)	→	ソリオ	スズキ	2,764

※ 社団法人 日本自動車販売協会連合会調べ

※ 輸入車および軽自動車を除く

カービュー編集部独自の分析

■乗用車全体で14カ月ぶりに前年を上回る！ メーカーブランド別でも全ブランドがプラスに

今回は、日本自動車販売協会連合会（自販連）、全国軽自動車協会連合会（全軽自協）、日本自動車輸入組合（JAIA）が発表した10月の販売データからマーケット概況をチェックしていこう。まず輸入車、軽自動車を含め、国内で販売された乗用車総数は32万780台、前年同月比は127.6%（貨物車、バスを含む新車総販売台数は38万1114台／前年同月比125.2%）と14カ月ぶりに前年を上回った。大震災の影響で落ち込んでいた各社の生産レベルが回復し、受注残の解消が順調に進んだことが大きな要因だが、去年は新車購入補助金制度が9月で終了した反動で、販売台数が大きく落ち込んでいたことも見逃せない。今年10月の32万780台という販売台数は、リーマンショックで大打撃を受けた08年は上回っているものの、公的支援策で回復基調となっていた09年の33万9567台には届いていないのだ。さらにタイの大洪水による各社の生産調整が始まっていることもあり、いまだ予断を許さない状況といえるだろう。

輸入車と軽乗用車を除く3/5ナンバーの国産乗用車（日産 マーチ輸入分含む）は20万5501台で、前年同月比は127.6%。メーカーブランド合計では、6カ月連続で前年同月比がプラスのスズキ、5カ月連続プラスのレクサス、2カ月連続プラスのホンダ、マツダに加え、トヨタが10万9067台で19.3%増とプラスに転じたほか、日産34.1%増、スバル84.4%増、三菱68.8%増、ダイハツ52.6%増とすべて前年を上回った。

月間ランキングでは「トヨタ プリウス（α含む）」が2万9632台で5カ月連続トップ。トップ3は2位「ホンダ フィット（シャトル含む）」2万2352台、3位「トヨタ ヴィッツ」1万9台と続き、これで5カ月連続で順位変動がなく、プリウス、フィット、ヴィッツの顔ぶれは10カ月連続でトップ3独占と、安定した売れ行きとなっている。ただ「ホンダ ステップワゴン」が前月18位から7位に順位を上げ、「マツダ デミオ」が前月6位から12位に後退するなど、トップ3以外は好不調が交差する結果となった。

軽自動車は乗用車部門が10万509台で、前年同月比125.9%（貨物車を含めた全体は13万3187台／前年同月比119.9%）と13カ月ぶりのプラスとなった。車名別では「イース」が好調に売れている「ミラ（ココア、イース含む）」がトップ、2位にも「タント」がつけ、ダイハツ勢が1-2位独占を果たした。

輸入乗用車は海外メーカー製のみでは1万3965台、前年同月比136.2%と3カ月連続のプラス（日本メーカー製を含む輸入乗用車全体では1万8265台、前年同月比134.1%）。海外メーカーブランド別乗用車ランキングはVW（フォルクスワーゲン）が3861台で10カ月連続トップ。2位にはBMW（ミニを除く）が2215台でワンランクアップし、メルセデス・ベンツは1771台で3位に後退。ただ、アウディ、ミニ、ボルボ、フィアット、プジョー、ポルシェ、シトロエンのトップ10はすべて前年を上回る売れ行きと好調がキープしている。

■ココも気になる！その1

ハイブリッド車攻勢で復調を狙うホンダに注目

3月の大震災で生産拠点の直接的被害を含め、大きな打撃を受けたホンダ。3月に発売予定だった「フィットシャトル」が6月にずれ込むなど、ニューモデル投入スケジュールにも影響を及ぼした。しかし当初の見通しより、生産レベルが早期に回復。6月16日に発売となったフィットシャトルも6月4555台、7月3324台、8月4574台、9月7369台、10月6360台と月間販売目標4000台を上回る売れ行きとなり、10月には軽乗用車を含めた乗用車全体で4万3954台、前年同月比24.7%増とプラスに転じた。

こうした回復基調を牽引しているのがハイブリッド車（HV）だ。「CR-Z」は10月末時点で1～10月累計6072台、前年同期比28.6%と落ち込んでいるが、「フィットハイブリッド」は8万6899台（シャトルハイブリッド2万1244台含む）と、フィットシリーズ全体で49.3%を占める売れ行きと絶好調。HVのおかげで、前年同期比も114.3%（販売台数は17万6234台。全乗用車中2位を堅持）と前年を上回る売れ行きだ。そして10月28日は、今やフィットに並ぶ売れ筋モデルとなった「フリード（スパイク含む）」にHVを追加。10月は販売日数が少なかったが1571台売れ、発売後2週間で2万台超の受注と、月間販売目標1万台を大きく上回る好スタートとなっている。

現在ホンダでは、「フリードHV／フリードスパイクHV」を含め、「インサイト」、「フィット」、フィットシャトル、CR-ZとHVラインナップは計6モデルになっているが、4～9月期累計のHV比率は35.6%まで上がっている。フリードHVの販売本格化に加え、年末から年度末にかけてエコカー減税終了前（12年3月末）の駆け込み需要も予想されるだけに、11年度全体では軽乗用車を除くと、ほぼ半数までHV比率が拡大する見通しだという。トヨタが年末に発表予定のコンパクトHVとのバトルを含め、HVがどこまで伸びるのか要注目だ。

■ココも気になる！その2

10月末時点で前年を上回る販売台数となったアウディ

昨年まで4年連続で年間販売台数記録更新中のアウディの勢いが止まらない。7月以来、4カ月連続で各月の過去最高を記録し、10月は1568台、前年同月比73.1%増と絶好調。1～10月累計では1万7782台で、前年同期比は126.0%。これで昨年実績の1万6854台を超える販売台数となった。

アウディの快進撃を支えているのは積極的なニューモデル攻勢。昨年末にフラッグシップの「A8」を投入したのをはじめ、1月にはプレミアムコンパクトの「A1」、さらに8月にはハイエンドモデルの核となる「A6」を投入し、いずれも好調な滑り出しとなっている。とくにA1は、9月までの累計で3368台と、「A3スポーツバック」の2850台を上回る売れ行きだ。もちろん従来モデルのテコ入れ策も抜かりはない。8月に300台限定ながら「A4 オールロードクアトロ」を発売。9月にはA3スポーツバックを改良し、アイドリングストップ機構を採用。10・15モード燃費で11.0%アップの1リッターあたり18.4kmを実現している。

また12月の東京モーターショーでは、すでにヨーロッパ市場には投入されているコンパク

ト SUV、Q3が日本初出品されるのをはじめ、A6ハイブリッド、Q5ハイブリッドクワトロ、S5などの注目モデルを展示する予定。先進技術満載のアウディならではのハイブリッドモデルも見ものだが、来年には日本に投入されるはずのQ3はすでに海外でも高い評価を集めているだけに見逃せない1台になりそうだ。

今年年間2万台突破を目標に掲げたアウディだが、着実なニューモデル攻勢により、VW、BMW、メルセデス・ベンツの輸入車御三家の一角を突き崩す日はそう遠くないかもしれない。

上記プレスリリースに関するお問い合わせ先

株式会社カービュー 広報・法務室 (pr@carview.co.jp)

tel : 03-5859-6158 fax : 03-5859-6180
